

【協働の評価】

協働で進めて いきたい理由	役割分担を相互に共有、実施することで、市は幅広い告知や、関係各所との連携を迅速に実施、運営者は事業内容の充実、現場のニーズを捉え、実現、実施可能となっている。今後も課題を共有し、互いに課題解決に取り組んでいきたい為。
協働の 成果・効果	【協働の成果目標】 子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる遊び場の提供および自然遊びの情報発信を行うほか、子育てに関する情報提供や、子育て中の親子に対する支援を地域団体等と協働で実施することにより、地域の交流や多世代交流の活性化を図ることを目標として本事業を実施した。 【達成できた点】 ・遊び場・寺分の新設について、利用者のニーズを行政に届け、昨年度実施計画立案、令和7年度予算に組み込み、開所につながった。 ・寺分を月2回程度開催し、週1回程度は開催してほしい、とのニーズから新たな居場所を検討。上町屋町内会館から利用可能の声を頂き令和8年度の開催につながった。 ・長期休みの居場所として認知が広がっており、小学1年生は保護者の連絡先を持って来所している。 ・小学校での出張冒険遊び場を開催できた。こどもみらい課より学校へ開催可能か打診し、内容は団体にて作成の計画書を提出し、開催可能となった。 ・ヤングケアラー支援のイベントとして、座談会を開催。前半、社会福祉法人ラファエル会 鎌倉地域支援室 三井圭子さん、こどもみらい課職員(こどもの権利について)、こども家庭相談課職員(ヤングケアラーについて)、NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもりの4者が話をし、後半は参加者と教育長を交え意見交換を行った。。 ・川崎夢パーク視察(市職員・スタッフ同行)を通じて、子どもの居場所のあり方・権利・遊びの価値について学びを深め事業方針の共有と強化につなげることができた。 【達成できなかった点】 ・おやこサロンの参加者数が減少傾向にあり、プログラム内容の見直しや参加促進策が十分でなかった。 ・開館時間の制約により、中高生の放課後居場所としての機能は果たせなかった。 ・近隣住民との継続的なコミュニケーションが不足していた。 ・子どもの声を反映する仕組みが不足していた。 ・遊び場そのもののニーズを聞けていない。 ・冒険遊び場のようなこどもたちの居場所がもっと増える必要がある。 ・冒険遊び場を鎌倉各地域へ広げるため、NPO 法人かまくら冒険遊び場やまもり以外の団体でも遊び場の運営ができるように検討が必要。
相互評価	【事業実施前】★3 ○市

※上手くいったこと と問題点・課題など	・令和 6 年度に共有した課題及び成果を踏まえ、令和 7 年度の課題を 4 点「多様な子どもたちの受け入れ」「遊びの場の必要性発信」「地域交流の活性化」「広報強化」を共有した。 ○団体 ・令和 6 年度の成果と課題を整理し、令和 7 年度の 4 つの重点課題（①多様な子どもたちの受け入れ・②あそびの場の必要性発信・③地域交流の活性化・④広報強化）を明確に設定することができた。
	【事業実施中】★4 ○市 ・随時状況を共有しながら、役割分担に基づき、事業を進めることができた。 ・広報活動として、市の公式 LINE での定期的な情報配信を実施したほか、チラシを小中学校、保育園並びに幼稚園などの子育て関連施設へ配布し周知を図った。 ・出張冒険遊び場の実施にあたり、青少年課、みどり公園課や各消防署と連携を行った。 ・寺分町内会館において月 1 ～ 2 回の遊び場・寺分を開催し、より細かい地域のニーズに対応した。 ○団体 ・HP・SNS・法人公式 LINE でのイベント情報発信、全小学校・保育園・幼稚園へのチラシ配布など、広報活動を積極的に展開できた。 ・遊び場・寺分を 5 月より開始（計 18 回・302 人来所）。深沢地域を中心に乳幼児親子の新たな居場所として機能し始めた。 ・出張冒険遊び場を計 10 回実施。七里ヶ浜小学校・深沢小学校での初の学校開催も実現し、冒険遊び場を届けられる場を広げることができた。 ・ヤングケアラー支援として周知イベントを実施し、子どもの権利の普及と地域の居場所への橋渡しを行った。
	【事業終了時】★5 ○市 ・イベントの実施や夏休み期間の木曜日開所、月 1 回の日曜日開所及び出張冒険遊び場の小学校開催等により、冒険遊び場が地域の子どもの遊び場として広がりを見せている。 ・出張冒険遊び場では地域住民等の協力を得られながら子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる場とすることができ、参加者数も増加した。 ・引き続き SNS 等を活用しながら広報活動を行い、事業の継続を図りたい。 ○団体 ・長期休みの居場所として認知が広がっており、小学 1 年生は保護者の連絡先を持って来所している。

	・小学生（特に中・高学年）への周知がまだ不足しており、単独での来場が少ない状況が続いている。 ・遊び場・寺分は深沢地域中心の利用にとどまるが、常連の親子利用は継続した。一方で大船地域等他地域からのアクセスが課題として残った。 ・出張冒険遊び場は予算の制約から鎌倉全域をカバーするには開催回数が不十分であった。
今後の展望	(1) 遊び場梶原のニーズ調査 ・遊び場そのもののニーズを探る ・小学生への周知不足もしくは知っていても来ることができないのか、どのくらいの子が遊び場を認識しているのか。 上記内容、利用者満足度アンケートを取り調査を行う。 (2) 遊び場・寺分の継続と新たな拠点の検討 ・遊び場・寺分の利用実績・利用者ニーズを継続的に収集し、開催回数・時間・空間の拡充を検討する。 ・寺分に加え、上町屋など別候補地への遊び場新設について、出張冒険遊び場の実施を通じて可能性を探る。 ・屋内外を組み合わせた遊び環境の確保と、小学生単独でも来やすい工夫・周知を強化する。 (3) 鎌倉全域への冒険遊び場の普及（3カ年計画） ・2026年度：「鎌倉の冒険遊び場ガイドライン」を策定し、やまもり以外の団体でも遊び場を運営できる仕組みを整える。 ・2027年度：「遊び場づくり講座」を開催し、地域スタッフ・担い手の育成を推進する。 ・2028年度：年齢に切れ目のない居場所づくりを実現し、中学生・高校生の居場所を他団体とも連携して拡充する。 (4) 多様なニーズへの対応と重層的支援の強化 ・不登校・ヤングケアラー・発達課題のある子どもたちの受入れ体制をさらに充実させる。 ・子育て支援センターや関係機関との連携を深め、子育て家庭が孤立しない地域づくりに貢献する。 ・大学生・高校生ボランティアの受入れ体制を整え、年齢に切れ目のない居場所づ

くりへの取り組みを強化する。

(5) 市との協働のさらなる深化

- ・来館者へのアンケートを実施し、遊び場のニーズ（屋外・屋内・遊び内容等）を定期的に把握・共有する。
- ・「地域に根ざした、年齢に切れ目のない、だれでも利用できる冒険遊び場」の実現を共通の目標として、協働事業を着実に継続・発展させていく。